

平成 19年 10月

## 藤井進也 学位論文審査要旨

主 査 渡 辺 高 志  
副主査 大 浜 栄 作  
同 小 川 敏 英

### 主論文

Hyperintense putaminal rim at 3T reflects fewer ferritin deposits in the lateral marginal area of the putamen

(3T MRIにおける被殻外側縁高信号域は同部のフェリチン沈着が少ないことを反映する)

(著者：藤井進也、松末英司、木下俊文、杉原修司、大浜栄作、小川敏英)

平成19年4月 American Journal of Neuroradiology 28巻 777頁～781頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は3T MR画像および剖検脳MR画像を用いて、T2強調像で被殻外側辺縁部に認められる線状の高信号域 (hyperintense putaminal rim : HPR) について、各年齢における頻度、MR画像と病理組織像とを対比検討したものである。その結果、HPRは20歳代より不明瞭ながら描出され、30-60歳代で明瞭に描出、そして70歳代以上ではHPRは再び不明瞭となること、HPRは加齢に伴う被殻のフェリチン沈着と関連があることを明らかにした。本論文の内容は、今後3T MR装置が普及することが予想される中で、HPRが正常像であることを認識することの重要性を示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。